

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

12月1日 (No.52・外も社会も寒いけど…号)

2008
*
12月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>



写真：飯塚伸夫



勝手にレッドデータ of 志木 (38)

足立町のマンホール蓋

志木市は1970年(昭和45年)10月26日の市制施行前は埼玉県北足立郡「足立町」でした。足立町は、志木町と宗岡村が合併した1955年(昭和30年)から名乗っていたものです。

つまり、この「足立町のマンホール蓋」は、今から約40年前のもののなのです。写真は、本町6丁目のもので、同型が6個連続しています。前後は新しい志木市のものです。工事や老朽化で交換されることも考えられ、少なくとも減ることはあっても増えることはありません。さて市内にはいくつ残っているのでしょうか？

(飯塚伸夫)

9/13
(土)

秋の夜に虫の声をきこう

9月になっても30度以上の真夏日が続く中、夕方から「秋の夜に虫の声をきこう」を開催しました。

今年は参加者が多く、サミット前に集まったのは、18家族（おとな25名）、こども29名、他にスタッフ9名総勢63名でした。

志木市教育サポートセンター磯所長の挨拶の後、早速虫取り網を持って、サミット裏の川原で虫を探しました。

親子で虫取りをする様子は何とも微笑ましく、このようなコミュニケーションが続けば、みんな活発な良い子に成長するのにとおもいました。エンマコオロギやクビキリギス、ショウリョウバッタ、ハグロトンボ等9種類の昆虫をみんなで捕まえ昆虫図鑑で調べた後、逃がしてやりました。また、虫の声をCDラジカセで聞いて、コオロギの種類によって鳴き方が違うのを理解しました。

すっかり暗くなってから、柏町の住宅街の方

へ行き、カネタタキのチンチンチンという鳴き声を聞くことができました。

最近は樹上にいるアオマツムシのリー・リーという鳴き声がすごくて、他の虫の声はほとんど聞き分ける事が出来ないほどのです。

最後に市内で毎年スズムシを飼っている方から頂いたスズムシを希望者に配って楽しいひと時を散会しました。（山崎光久）



9/28
(日)

いろは親水公園こもれびのこみち斜面林の手入れ

毎月第4日曜日 9時30分～11時30分

志木の緑を特徴付ける台地端部の斜面林が次々と失われてきた中で、現存する最も広い斜面林がこもれびのこみちです。新河岸川に面し台地の自然と川の自然が接する位置にあり、自然のネットワークの上でも貴重な所です。

この夏から開始した活動は、志木市が今年度から始めた「公園美化活動会」制度に基づいて実施しているもので、正式には8月18日付で志木市から承認されました。

清掃の他、低木の剪定や下草刈りも行なっていく予定ですが、当面は長年にわたって捨てられたごみの搬出が課題です。夏には森の中の膨大な量のごみを出し、秋からは堤防と斜面林の谷間に捨てられたごみを、藪を切り開きながら搬出しています。

活動は原則として第4日曜日の9時30分～11時30分、雨天の場合は次ぎの水曜日（12月

は月曜の29日）の同じ時間に行います。他に週1回の巡回見回りも行っています。

（天田 眞）



環境学習 ―エコシティ志木の出前講座

柳瀬川の自然環境学習（総合的な学習の時間）

10月7日(火) 志木小学校 5年生 149名

10月22日(水) 宗岡第三小学校 5年生 53名

11月19日(水) 同 第2回

柳瀬川や隣の水谷田んぼ周辺を利用した自然学習で、志木小は1学期に続けて2回目で、川、野鳥、植物、昆虫のグループに分かれて学習しました。



志木小学校



宗岡三小

今年で3年目になる宗岡三小は新河岸川に面した学校ですが、新河岸川の形状は川の学習に適した場所が無いため、1時間近くかけて柳瀬川まで歩いてやってきます。川(魚)、野鳥、植物のテーマで、1回目は全員が交代で体験、2回目は各自がテーマをきめじっくり学習しましたが、新河岸川と柳瀬川の比較など宗岡三小ならではの学習も期待されます。

志木子どもエコクラブと屋上ビオトープの手入れ作業

2学期のエコクラブでは、「葉っぱ判定土」に取り組みました。これは、樹木の太さを測ることにより樹木が二酸化炭素を吸収する量を推計し、人間の生活で放出される二酸化炭素の量と比べる学習プログラムで、昨年までは志木市と環境市民推進会議が学校に出向いて行っていました。

今年度は休止となったため独自に実施しました。その他には屋上ビオトープのセイタカアワダチソウや学級農園の雑草を取り堆肥づくりをしています。

また、エコクラブの講師2・3名がクラブ開始前の1時間程を使ってビオトープの手入れ作業をしています。

増殖しすぎる外来植物や水路を埋め尽くし水の流れを阻害している水生植物を取り除き堆肥にしたり、観察路に伸びてくる枝の切り戻し、高木の高さ詰めなどの作業をしています。水路に増殖した特定外来生物のオオフサモは度々の除去にもかかわらず根の完全除去に至っていません。(天田 眞)



水路にはびこるオオフサモ

第二期志木市環境基本計画の策定作業より実効性の高い計画をめざして

環境市民会議（大滝孝久委員長）で議論されてきた「第二期志木市環境基本計画」の素案が、庁内検討を経て、10月27日と11月11日の2回、環境審議会（武藤邦昭会長）で審議されました。審議会での指摘に添って、11月18日の環境市民会議・部会長会議で最終的な検討がおこなわれました。

素案は、今後審議会の承認を経て計画案と

して市民に縦覧され、広く意見を求められます。10年前に『市民がつくる志木市の環境プラン』を発表した当会としても、より実効性の高い基本計画となるよう積極的にかかわっていきたいと考えています。

縦覧の日程はまだ未定ですが、会員の皆さまも是非計画案をご覧ください意見をお寄せください。(毛利将範)

10/5
(日)

お宝マップづくり

(財)サイサン環境保全基金助成事業

サイサン環境保全基金からお宝マップの印刷代として30万円の助成が決定しました。本年



中にマップの原画や記事を作成して2月に印刷をおこなう予定です。

来年度以降は、できあがったマップを、ぶらり散歩や観察会、小学校の環境学習、調査など当会の事業で無料配布し、活用します。

(毛利将範)

◆次回のお宝情報マップづくりは12月7日(日)午後2時から、いろは遊学館でおこないます。

10/17 ~ 10/19
(金) ~ (日)

いろはふれあい祭り

主催：いろはふれあい祭り運営委員会 (いろは遊学館利用者の会、志木小学校、同PTA、いろは遊学館・図書館)

いろは遊学館が志木小学校と学社融合として誕生してから始まったいろはふれあい祭りは今年で第6回となりました。

当会は例年同様の柳瀬川水族館と活動紹介のパネル展示に加え、昨年に続く山口理事による布ぞうりづくり(今年はミニサイズ)と新たに山崎理事による草木染の展示を行いました。パネル展示には新河岸川流域川づくり連絡会(当会も参加)が製作した新河岸川流域マップや総合治水等の啓発ポスターも加わりました。17日の午後は志木小学校の志木っ子まつりとして

児童全員が展示を見て周り、いつもながら水族館は人気でしたが、3日連続で魚を捕獲して展示するのも大変です。また、今年は初めてカゲロウやプラナリアなどの川底の石の下に生息する虫たちも展示しました。

(天田 眞)



11/9
(日)

志木市民まつり「カッパだよ全員集合!!」

主催：志木市民まつり実行委員会 (志木市商工会、産業祭実行委員会、その他各種団体)

去年まで市役所駐車場で開催されていた志木市民まつりが志木小学校校庭を中心に開催されました。この催しは「商工業者や農業者による地域の特産品やサービスの振興や文化の交流とふるさと意識の高揚を図る」ということで、今年から市民団体にも参加が呼びかけられたので当会もこれに应运え、柳瀬川水族館とポスター展示で参加しました。

校庭のテントという以外はいろはふれあい祭りと同様な展示でしたが来場者は多く、水族館の展示を見るのは初めての方も多かったようで、柳瀬川で今朝捕まえてきた魚ですとの説明に殆

んどの方が一様にびっくりしていました。

初めての参加にもかかわらず実行委員会にも参加させていただき、日頃つながりの少なかった商工会等の皆さんとの接点ができたのも収穫でした。

(天田 眞)



11/2
(日)

新河岸川をぶらり散歩

9時～3時30分 参加者17名

昨年実施した「柳瀬川をぶらり散歩」に続いた川を歩く企画で、舟運や治水に関しての長い歴史がある新河岸川ならではの歴史と自然を訪ねながら、志木（いろは橋）からふじみ野市（養老橋）まで約14kmの散歩でした。

コースは、村山快哉堂→志木・富士見境の新河岸川旧河川→宗岡の旧堤防（下の谷堤・佃堤）→南畑の旧堤防（木曽目堤）→明治の煉瓦樋門（山形樋管・水越樋管）と旧堤防（竹之内堤）→昭和初期の砂川樋管→蛇島調節池→旧河川→大杉神社→旧河川→新河岸川放水路→明治の煉瓦樋門（三軒家樋管）→渋井水門→蓮光寺→古市場河岸跡→福岡河岸跡・昭和初期の玉石護岸→福岡河岸記念館

途中で埼玉県生態系保護協会ふじみ野支部が取り組む数カ所のビオトープも見学しました。

皆さん少々疲れたかもしれませんが、天気恵まれ、見所満載の充実した一日でした。この続きとして来年3月1日に養老橋から川越市街地まで歩く予定です。（天田 眞）



11/15
(土)

環境まちづくりフォーラム

既存樹林を活かしたマンション開発

志木ガーデンヒルズ集会室

主催：地球環境パートナープラザ（環境省と国連大学が共同運営する環境情報センター）

慶応義塾志木高校の寮跡地にマンション計画が持ち上がってから6年が経過しましたが、持続可能な地域づくりの実例として、既存の緑を保全したマンション開発や緑を通じての新旧住民のコミュニティづくりをテーマとしたフォーラムが現地で開催されました。

緑地の設計を担当した（株）愛植物設計事務所の山本紀久さんの案内で、志木市が借地し一般に公開されているけいおうふれあいの森や移植された大イチョウ等のマンション中庭の緑地を見学の後、集会室でフォーラムとなりました。保全運動を展開した「けいおうの緑に想いを寄せる会」の事務局担当の伊東載芳さんやけいおうふれあいの森の手入れ作業を行う「グループぼんぼこ」代表の寺田明子さん（お二人とも当会会員）をはじめとして、三井不動産、志木市、近隣住民、マンション住民等、この間の経緯に

関わった多くの方々からお話を伺いました。こうした成果を特殊例に留めないためにも参加して欲しかったディベロッパーの方や行政の方が少なかったのは残念に思いました。

（天田 眞）



志木市内の野火止用水分水路跡

NPO法人エコシテイ志木代表理事

天田 眞



↑ 1. 幸町1-16 の水路跡

野火止用水が志木を流れていたことは良く知られていますが、水路が暗渠化され雨水下水路となってから既に40年以上も経ち、実際に見たことのある市民は少ないようです。筆者も志木に住むようになってまだ28年ですから見たことはありません。また、市内にはいくつもの分水路があったこともあまり知られていないようです。

このシリーズでは第8回に野火止用水を取り上げていますが、今回は志木の街の中に人知れず残る野火止用水の痕跡を紹介します。

志木市内への入り口は3ヶ所に分けられます。

- 西側の志木大通り(防衛道路)付近の新座・志木境界から入るルート
- 東側の慶應志木高校内のルート
- 中央の志木駅南口柳瀬川よりの交差点から入るルート。入り口で本流と西側への分水に分かれる。

● 西側の分水は新座市北野の立教大学西側地域を流れた後、志木大通り(防衛道路)付近から新座・志木境界の小規模な谷津を柳瀬川方面の低地に向かい流れていました。

この分水では志木大通り南側の水路敷き、北側の市境の谷に名残りが見られます。

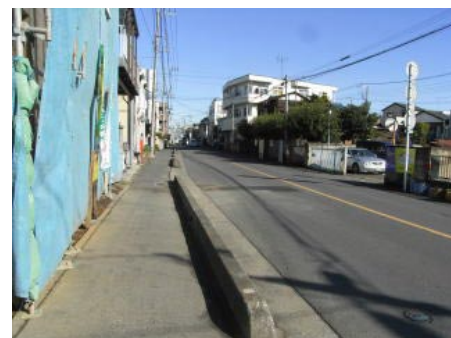
● 東側ルートは新座・朝霞境界沿いの朝霞側を流れてきた水路が慶應通り陸橋の朝霞側地下道の位置で線路をくぐり、慶應高校構内を経て、朝霞・志木境界の谷津地の朝霞側斜面の中腹を新河岸川に向かっていましたが、途中で分かれた分水は朝霞の宮戸方面にも向かって



↑ 2. 慶應高校構内素掘り水路



↑ 3. 本町4-8 左側歩道が水路跡



↑ 4. 本町6-12 左側歩道が水路跡

ていました。

慶應高校の構内には素掘りの水路が森の中に残っており、その先はけいおうふれあいの森に沿った歩行者道、その先は片側の歩道に名残を残し、朝霞側の斜面には水路敷きが長く続いています。

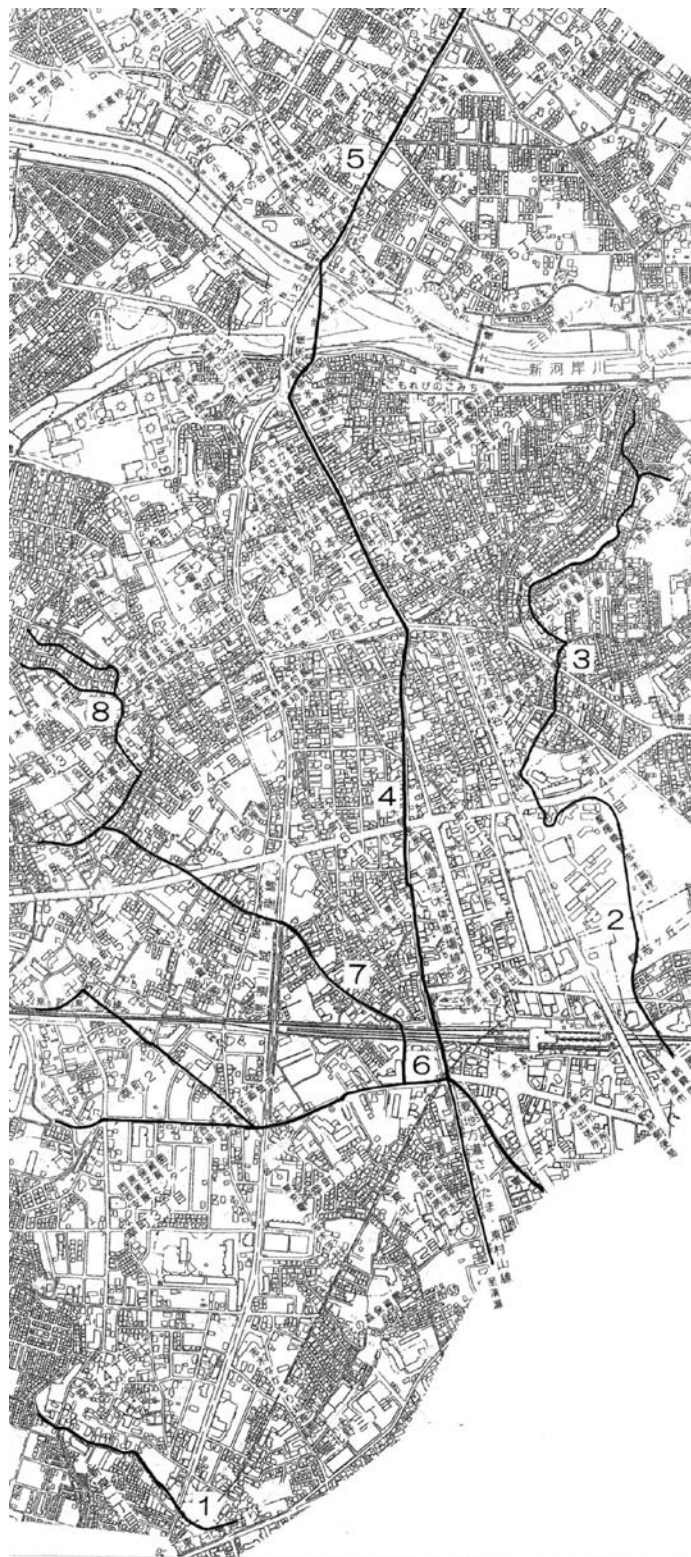
● 本流は、旧奥州街道に沿って市場地区に至り、いろは樋で新河岸川と交差し、宗岡に入った後もいろは通りに沿ってあきはね通りまで流れ、左右に分かれていました。

旧奥州街道に沿った部分は片側歩道の位置に名残が残ります。宗岡では排水路に蓋掛けした歩道になっています。

● 本流から西側に分かれた分水は直ぐに二本に分かれ、直進する流れは愛宕通りを西に進み、志木大通り交差点(大塚建材)を過ぎた所で二手に分かれ、いずれも柳瀬川方向の低地へ向かって流れていました。

愛宕通りから右へ分かれた分水は線路を越え、柏町の中道を進み、氷川神社裏手から低地に向かって流れていました。

中道の片側歩道や氷川神社・第二福祉センター裏、住宅地内の排水路等に名残を残しています。



↑ 5. 中宗岡1-5 左側歩道が水路跡



↑ 6. 幸町1-4 水路跡



↑ 7. 本町6-25 右側歩道が水路跡



↑ 8. 柏町3-5 氷川神社裏手の水路

10/3
(日)

埼玉県

新河岸川広域景観プロジェクトについて

新河岸川広域景観プロジェクトは埼玉県が主催するもので、江戸時代から昭和のはじめまで約300年間「舟運」で栄えた歴史ある「新河岸川」をモデルに、《景観》について関心を持ち、県民やNPO法人、企業等と市、県が一体となり行動することで、埼玉の美しい景観を先導することを目的としたプロジェクトです。

7月に和光市で第1回が開催されたのを皮切りに、2回目は8月に朝霞市で「景観掘り起こし勉強会（和光・朝霞エリア）」が開催されました。

そして10月3日(日)に第3回「新河岸川広域景観プロジェクト景観掘り起こし勉強会（志木・富士見エリア）」が志木市いろは遊学館で開催されました。（参加者33名）

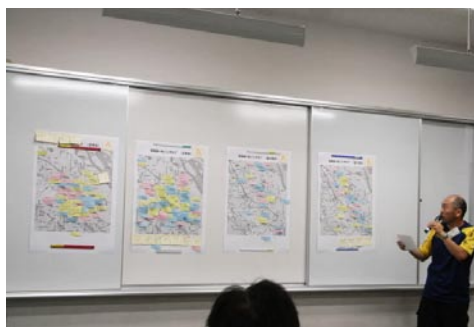
NPO法人ちちぶまちづくり工房代表理事の市川均氏による「秩父路魅力マッププロジェクト」の紹介やNPO法人ゆめつるせ代表理事の小杉武氏による「新河岸川の舟運と富士見市内

の河岸について」の講演がありました。

その後参加者が4グループに分かれて志木市と富士見市の新河岸川で日頃思っている「良い景観」「残念な景観」「景観資源」を付箋に書き出し、グループ内で発表しながら「景観掘り起こしマップ」の作成を行いました。

年内に「ふじみ野・川越エリア」の勉強会を開催し、来年以降の活動につなげる予定だそうです。（山崎光久）

（埼玉県ホームページ新河岸川広域プロジェクト便から一部引用）



11/1
(土)

平成20年度 新河岸川流域フォーラム

みんなであつめる、流域の治恵（ちえ）

このフォーラムは、総合治水対策を含めた健全な水循環形成の意義・重要性等について、広く一般の方に理解を深めてもらうことを目的に、川づくり活動への参画、行政と市民、市民団体間のコミュニケーションの活性化と連携を深めるため、新河岸川流域川づくり連絡会（国と市民との連絡会）と新河岸川流域総合治水対策協議会（流域自治体による協議会）の主催により毎年開催しているものです。今年は新河岸川流域で行われている活動や総合治水対策の必要性・効果を知り広げることを目的にふじみ野市で開催しました。

ふじみ野市役所による「昭和57年の台風18号の浸水被害」や元・ふじみ野市上福岡民俗資料館長の高木文夫氏による「新河岸川舟運の栄枯盛衰」、朝霞市本町商店会で行っている「黒

目川・水族館」の紹介などがありました。当会からは天田代表よりオオブタクサやアレチウリの「外来植物駆除作戦」の活動紹介をしました。

（伊藤智明）



高木文夫氏による昔の写真を使った「志木河岸の風景」の解説

生き物情報は Tel/Fax 048-471-4275 Email: qwj11624@nifty.com(毛利)へ
ホームページ⇒<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen-info.html>

《鳥類》

チョウゲンボウ (1) →11/2(日) 8:30 頃幸町1丁目の東京電力鉄塔で、カラス4羽に追われ「キィキィキィ！」と鳴いていた【毛利将範】

カワウ (30) ・ **マガモ** (2) →11/2(日) 新河岸川ぶらり散歩で。市役所近くの新河岸川

シメ (声1) →11/23(日) こもれびのこみち斜面林手入れ作業後、こもれびのこみち・トンボ池で【毛利将範】

《甲殻類》

サワガニ (2) →9/28(日) こもれびのこみち斜面林手入れ作業で2匹発見

《ほ乳類》

ハクビシン (死体1) →10/3(金) 富士見市立針ヶ谷小学校前の路上で交通事故死【天田眞】

タヌキ (死体1) →9/26(金) 志木中学校付近の柳瀬川で草刈機に巻き込まれ【天田眞】

タヌキ (死体2) →11/2(日) 新河岸川をぶらり散歩で遭遇 ・袋橋左岸側で交通事故死 ・新伊佐島橋左岸側で草刈機に巻き込まれ



柳瀬川のタヌキ 9/28(毛利)



サワガニ 9/28(毛利)

環境 ひとくちメモ(11) 伊藤 智明

川の国 埼玉

埼玉県は、県土の中で河川の占める割合(3.9%)や川の幅(鴻巣市と吉見町の境を流れる荒川の幅が2,500m)が日本一であるため、川の国と呼ばれています。

かつて県内の都市部河川は、全国各地で公害が社会問題となった昭和30年代以降工場排水などにより、さらに都市化が著しく進展した昭和50年代以降生活排水などにより水質汚濁が進みましたが(不老川や綾瀬川は全国で最も汚れた河川と言われた時期も)、現在では下水道などの水質浄化対策が進み、県内の河川水質は格段に改善してきています。

また、洪水対策などから排水路化したコンクリート護岸が多く作られましたが、現在で

は河川工事も自然に近い「多自然川づくり」を取り入れる例も増えてきました。

埼玉県では今年度を“川の再生元年”として、



水辺再生推進室を新設し、県民誰もが川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国 埼玉」の実現に向けて、水辺再生事業・地域連携の推進に関する事業などを推進しています。

埼玉県 環境部 水環境課 里川づくり県民推進事業 環境白書特集編「川の国 埼玉」

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A09/BG00/satokawa/hakusyo/hakusyo.html>

埼玉県 県土整備部 水辺再生推進室

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A08/BW00/core.html>

☆会員状況

2008年度更新済み会員（11/24現在）

個人正会員 51

団体正会員 2

賛助会員 2

★本会の財政基盤は、
会員の方の年会費が
頼りです。

★2008年度分の継続
更新をよろしくお願
いします。

★宛名シールに会費
の有効期間が書いてありますので、
チェックしてください。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会が参加している、または主な 協力団体

いろは遊学館利用者の会

グループぼんぼこ

(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

志木おやこ劇場

志木市コミュニティー協議会

市内小中学校

新河岸川水系水環境連絡会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川流域川づくり連絡会（国土
交通省）

新河岸川流域川づくり懇談会（埼玉県）

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まると博物館「河童のつづら」

<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/>

志木市立郷土資料館の 農 具 その5

トウミ



脱穀した麦や稲は、粒と一緒に落ちた穂先のゴミや不純物が混じっているため、トウミにかけて粒とゴミを選別する道具である。

トウミは本体の中に板の羽根を内蔵しており、本体の上部から脱穀した麦を入れ、羽根板を回転させて風を送り、重い麦粒は下に落とし、軽いゴミは外に吹き飛ばし選別する構造になっている。大きさはいろいろあるようで、当館のものは、全長110cm、高さ112cm、胴部の幅40cmで他のトウミに比べ小型である。



トウミ（唐箕）による風選（皆野町 昭和59年）
『埼玉の民俗写真集』埼玉県 平成3年（1991）

【執筆・撮影協力】

志木市立郷土資料館

〒353-0002中宗岡3-1-2 ☎ 048-471-0573 月曜日休館



↑汚濁とユスリカ駆除 1980年6月（『富士見市史』より）



↑上の写真とほぼ同じ場所から 2008年11月24日（毛利将範）

昔の写真は、1980年の柳瀬川（富士見市水谷東2丁目）。水質汚染により多量のユスリカが発生し社会問題ともなっていた当時、ユスリカ駆除のため薬剤散布をしている風景です。

『富士見のあゆみ』によると、当時の柳瀬川の水質について「BOD（生物化学的酸素要求量）測定を始めた昭和52年から見ると、12ppm（*）だった値が年々悪化して昭和54年には40ppmと、約四倍近くも汚染が進行した。……これは都市化の進行や河川改修工事などが原因ではないかと思われる。」と記し、都市排水路と化した当時の柳瀬川の様子を伝えています。

ちなみに、平成19年の埼玉県の調査では、柳瀬川（栄橋）でのBODは1.4mg/ℓ（『志木市の環境』平成19年度版）。次第に水質が改善し、東京湾からアユやボラ、マハゼ、ウナギ、モクズガニなども遡上してくるようになり、今や柳瀬川は市民の憩いの場としても大切な存在となっています。（毛利将範）

参考文献 『富士見市史』（資料編1 自然）富士見市 昭和59年（1984）
『富士見のあゆみ』富士見市 昭和57年（1982）
『志木市の環境』（平成19年度版）志木市 平成19年（2007）

（*）水質については現在、ppm（parts per million：100万分の1）に代わって、水1ℓの中に物質（溶質）が何mg含まれているかを示す「mg/ℓ」という単位が使用されています。数値はほぼ同じ値を示します。

イカルチドリ



イカルチドリ (毛利 1992.2.1)

志木の柳瀬川でよく見られるチドリの仲間には、イカルチドリとコチドリがいます。コチドリは夏鳥ですので、特に冬期に見られるチドリはイカルチドリと思って差し支えないでしょう。

漢字で書くと「斑鳩千鳥」（『日本国語大辞典』小学館）とか「桑鳩千鳥（清棲幸保『野鳥の事典』東京堂出版）。しかし筆者はいかにも「怒る千鳥」が似合っていると思っています。というのも、目がクリッとして可愛らしい印象の「コチドリ」に比べると、少し目つきが悪く肩を怒らせているように感じるからです。

.....

1990年代の始め頃は、柳瀬川ではイカルチドリは冬鳥でした。夏鳥のコチドリと入れ替わりに少数のイカルチドリが現れていました。それが2000年代に入った頃から、冬にやってくるイカルチドリの数が増えはじめお馴染みの鳥になると同時に、夏も残り繁殖するようになりました。

繁殖の決定的な証拠にはまだ遭遇していませんが、市役所近くの栄橋上流での抱卵らしき行動や幼鳥の姿は確認していますので、繁殖の状況証拠はそろいつつあります。

コチドリも砂礫のある川原などで繁殖しますが、イカルチドリに比べて多少砂・泥質を好み、水谷田んぼの畑での繁殖も確認していますので、

砂礫を好むイカルチドリと微妙に棲み分けをおこなっているのかもしれませんが。

.....

今頃の季節、柳瀬川の砂礫のある中州などでよく10~20羽の群れになっています。といっても、周囲の小石と非常に見分けにくい保護色なので、じっとしていると見逃してしまいます。何羽かが動いたときに、近くをじっくり探すと「あ、ここにも」「こっちにも3羽」と次々に発見し、隠し絵さがしにも似た感動を味わうことができます。

冬の柳瀬川は渡り鳥のカモたちが主役ですが、水面を低く鋭く飛ぶ姿や、川原の石ころに隠れている「イカルチドリさがし」という少々マニアックな楽しみ方をぜひお勧めいたします。怒り肩のイカルチドリも案外可愛いですよ。



砂礫の中のイカルチドリたち (03.12.9)
山崎光久『CD 柳瀬川・私の鳥図鑑』より

◇サイサン環境保全基金から当会の「お宝マップ」作成事業に助成金をいただけることになり、ここ数年間温めてきた構想がやっと実現します。

◇来年度以降は、マップを活用したさらなる活動の浸透・発展を期待したいと思います。(ふくろう)

● エコシティ志木通信
● 第52号・2008年12月1日
● 〈発行〉

● NPO法人 エコシティ志木

● 〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

● 電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

● URL <http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

● E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com